

昭和二十年八月九日 金曜

一七時十分澁井別館ニ於テ軍務課岩佐曹長ヨリ至急

登廳方同時次官秘書官廣瀬中佐ヨリ「ソ」聯宣戰

セリ至急登廳「」電話連絡アリ八時前登廳ス

二山田大佐ト協議ノ「」

「ソ」聯宣戰ニ伴「」處置トシテ

陸軍意思「」決定

大臣總長

局部長會議

最高戦争指導會議

閣議

御前會議

決意闡明

「」プログラム制作製上申ス

陸軍

3-1

0919

三ノノ聯ノ宣戰布告ニ伴ヒ帝國ノ採ルヘキ態度案トシ
テ別紙作製

東京・丸山納

0920

ソノ參戰ニ伴フ戰爭指導大綱(案)

昭和ニ、八九

方針

帝國ハソノ參戰ニ拘ラス依然戰爭ヲ繼續シテ大東亞戰爭ノ目的完遂ニ邁進ス

要領

一ソノ聯ニ對シテハ宣戰ヲ希告セサルモ自衛ノ為飽ク迄文戰ス

ニソノ聯若クハ中立國ヲ利用シテ好機ニ乘シ戰爭終結ニ努カス

但シ皇室ヲ中心トスル國體ノ護持及國家ノ獨立ヲ維持スルヲ最少限度トシ當分對ソノ交渉ヲ繼續ス

三國民ヲシテ大和民族悠久ノ大義ニ生クル如ク重大決意ヲ促スモノトス(詔勅)

四速カニ國內ニ戒嚴ヲ施行ス

四十時三十分ヨリ最高戦争指導會議開催

出席者 構成員ノミ(總理、陸海軍大臣、參謀總長、軍令部總長、外務大臣ノ六名)

十三時三十分終了(豫定ヨリ一時間半延長)

論盡キス決定ニ至ラス閣議ニ譲リシモノ如シ

五線合計畫局參事官 白井中佐、長官ノ命ニ依リ軍

務局長ノ許ニ來訪、總理、陸海軍、外務大臣(最戦

議出席者)不在中ノ閣僚、書記官長等ノ氣分ヲ

披露ス即一對コソ見透シヲ誤リタル責ニヨリ總解職

スヘキナリニ戦争ニハ勝テ又三統帥部ノ作戰ニ關スル見

透シヲ軍ニ率ネントノ空氣ナル由ニテ竹下中佐ハ局

長ノ命ニ依リ宮内省最高戦争指導會議室ニ至

リ大臣、總長ニ右ノ空氣ヲ傳達閣議ノ參考ニ供セリ

東京 丸山納

0922

六引キ續キ總理官邸ニテ閣議開催一七三〇一旦散開
一八三〇再開ニニ〇終了前後實ニ九時間ニ及ヒ遂ニ決
定ヲ見ルニ至ラサリシモノノ如シ特ニ第一次ニ於テハ閣僚ヨリ
國力ノ現状、食糧ノ見透シ、作戰ノ見透シ等ニ付
質問續ホセル模様ニテ陸軍大臣ハ今頃カカルトカ分
ラヌテハ困ル旨發言アリシ模様ナリ小田原評定トハ正
ニコシヲ評スヘキカ

七ニニ〇ヨリ御前會議開催參集員最高戦争指導
會議構成員(幹事會)

八午前ノ最高戦争指導會議ノ内容ハ極秘ニ附サレア
リシモ軍事參議官會同席上參謀總長ノ發言ヲ
聞キタル軍事課高山大佐ハ述べ所ニ依ヒハ陸軍提案
ノ和平四條件ハ一國體ノ變革許サスニ外地日本
軍隊ノ武装解除ハ外地ニテ行ハス内地ニテ日本自ラ行フ

三、保障占領サス四、戦争責任者ノ處罰許サス
ニミテ右條件ニ付意見ハ一致ヲ見サリシ模様ナリ（仄聞
スル所ニ依レハ外相ハ第一項ノミニテヤリ度意向）
右ニ付飯尾、畑中等陸軍カ和平條件ヲ出シタルコトニ付
不満ノ意ヲ表セリ徹底抗戰以外ニナシト言フ
九、軍事參議官會同一八三ヨリ開催東久、通朝、香、杉、山、土、肥
原、梅、津、各將軍參集セラレ
十、今後ノ準備ノ爲内政班ハ班長竹下中佐ハ全般及戰爭指
導輔佐浴中佐班業務統轄、椎崎、畑中政變對應
江口中佐宣傳情報、田島少佐戒嚴法規、白木少佐廢
務ニ臨時分擔ヲ定メニッロヨリ班内會報ヲ開ケリ
十一、加藤大佐ハ午右東條大將ニ情況ヲ報告ス
小磯大將ハ所在不明ナリ